

第1回大分県美術館構想検討委員会 議事録

期日：平成22年1月27日（水）

時間：12：40～15：00

場所：大分県立芸術会館 講堂

1 大分県立芸術会館現状視察（12：40～）

- ・芸術会館職員の案内で、展示棟及びホール棟の現状視察を実施
（全委員出席：青木茂、板井ひとみ、金村孝之、川崎裕一、酒井忠康、佐藤寛子、澄川喜一、中山欽吾、山口真紀、山口正文、渡辺恭英 50音順）

2 委員長、副委員長選出（13：00～）

- ・渡辺委員の推薦により、委員長に澄川委員、副委員長に中山委員を選任

3 知事あいさつ（13：05～）

- ・お忙しい中、検討委員会にお集まりをいただき感謝する。
- ・ご覧いただいたとおり、芸術会館は老朽化しており、また、県民ニーズに十分応えきれないという問題もあり、美術館のあり方を、その必要性も含め議論をいただき、方向性を決めていこうということで検討をお願いした。
- ・委員会を開催するにあたり県庁内で検討を行ったところ、議論をいただく課題ばかりが増えたところであるが、1年ぐらいで方向付けをいただければ誠にありがたい。よろしくをお願いしたい。

（自己紹介（13：10～））

○委員長をはじめ委員11名全員が簡単な自己紹介を行う。（資料P3～4参照）

4 議事

（1）平成21年度の検討経過について（13：20～）

- ・事務局から資料P5に基づき説明を行う。
※質疑等なし

（2）検討委員会の進め方について（13：25～）

- ・事務局から資料P6～7に基づき説明を行う。
※質疑等なし

（3）文化振興条例等について（13：35～）

- ・事務局から別途配付資料（リンク参照）に基づき説明を行う。
※質疑等なし

(4) 県立芸術会館の現状と課題について (13:40~)

(5) 県立美術館の必要性(意義)について (13:40~)

・事務局から資料 P8 ~ 14 に基づき説明を行う。

○酒井委員 ここに来るまでは、芸術会館を上手に利用できればと考えたが、現状を見ると、芸術会館はひとつの役割が終わっている感じがする。今までの歴史を踏まえながら、いい意味で次に引き継ぎ展開させる、新しい美術館を開設するのがいい。

○澄川委員長 床のマットをはがすと、クラックが入っているのではないかと心配する。

○青木委員 耐震診断は行っているのか。

○事務局 耐震診断及び耐震補強済みである。

○青木委員 そうであれば、建築的には、使用上の問題はない。水没の危険の確率は。

○事務局 何十年かに一回の洪水時に水没の危険がある。

<※正確には確率は 100 年に一度>

○青木委員 過去三十数年で起きたことはあるのか。

○事務局 開設後 32 年だが、水没はなかった。

○青木委員 そうであれば、この建物が再利用可能であると判断したい。

○酒井委員 再利用は可能かもしれないが、美術館としての再利用はかなり苦しいという印象を持った。

○中山副委員長 美術館のような公共施設は、県民だけでなく、県外からも来てもらう必要がある。そういった人々を迎えるロケーションが非常に重要な要素だと考える。そのような場所があるかどうかは今後の議論の中で考えたい。

○川崎委員 芸術会館がこのままでいいとか、県立美術館がいらぬという議論はほとんどないと思う。しかし、大分市美術館もあり、国の状況や行革など先が見えない社会情勢の中でも、知事は、県民の強い思いがあれば、美術館を造るという判断はできるのか。

○知事 財政は厳しいが、それなりの対応はできる状況にはある。そうでなければ諮問はしない。県民が納得する良いコンセプトができ、やれということであれば、少々無理をしてでも造るつもりはある。

○川崎委員 頼もしい意見が聞けた。この場所に本格的な美術館を造るか、リファインを行う。また、大分駅の高架化の駅ビルを何フロアか買い取って、アネックスを造り、県内全体から来た方が美術に親しめるようにするのはどうか。今なら大分駅周辺にもチャンスがあると思う。

○金村委員 芸術会館は、高校生の制作展の際に展示がしづらい、立地場所が中心部から遠い、展示室が小さく大きな展覧会が見られないし、休憩場所もないといった問題点がある。

○山口(正)委員 芸術会館は一世代前の美術館のイメージで、美術館としての個性がない。鑑賞以外の美術館としての楽しみがなく、息苦しさを感じたこともある。場所も問題で、もっと利用しやすい場所、憩いの場所になるような所が良いと思う。

○山口(真)委員 芸術会館は現在ホールがあるので、新たに造るときも 500 人くらいのホールがあっても良いのではと思う。また、場所の問題では、大分県では車で移動するのが当たり前のため、駐車場のことも考えるべきである。

- 渡辺委員 美術館構想委員会では、美術館を柱として検討するのか、それともホールも併せて検討するのか。また、収蔵スペースが狭いという問題と収蔵に適した土地環境にあるのか。
- 知事 ホールについては充足してきていると考えており、残っているのは美術館機能だと思っている。ホールの議論を封ずるつもりはないが、今はそのような考えで整理しようかと思っている。また、収蔵関係の機能は非常に弱いと聞いている。
- 酒井委員 知事の言われたように、今回美術館に絞って話をしていくわけだが、美術館の中にある音楽性をソフト面で生かす可能性を考える必要がある。
- 板井委員 美術館というと冷たい建物のイメージがある。それを感じさせない美術だけにとらわれない総合的なホールという夢のあるものが造れたらと思う。絵画の中で音楽を聴くとか、新しくて大分らしい発想も考えた美術館、芸術館がこれからの時代にはマッチングしていると思う。
- 山口(真)委員 先程、ホールの話をしたが、絵画を飾った部屋で演奏して、お茶を飲んだりできる美術館は大分にそうないと思う。ホールと美術館という今の形でなくてもいいと思う。
- 澄川委員長 展覧会の開催時にクラシックを演奏するだとかティーパーティをするとか、今の美術館は幅広く使えるようになっている。そういうことも考えられる新しい大分の美術館という意見が多いようだが。
- 中山副委員長 美術館として絶対に持っていなければならない機能は妥協せずに用意するが、音楽を含め様々な利用が生まれる自由度を持った場であって欲しいと思う。
- 佐藤委員 周りの者に意見を聞いてきたが、大分の作家の収蔵品を見たいとの声が多く、常時、系統立てて見られる空間が必要ということであった。また、教室やワークショップの工房のような空間が不足しているという問題もある。一つの建物に全ての要素を入れると膨大なお金や建物等が必要となるので、どこかを中核として、サテライトでポイントを設けるような建築案も良いと考えている。最小限の投資で最高のサービスが受けられるよう、お金をハードに使うのではなく、きちんとした機能の箱を造って、鑑賞教育や美術教育、音楽も含めたソフト面にかけて欲しい。
- 酒井委員 美術館は30年周期と考えている。人生のサイクルでもあるし、芸術の表現方法も30年で大きく違ってくる。美術館は生き物で、時代に対応させていくソフトが極めて大切だ。あまり経費をかけない建物を造った方が良い。
- 澄川委員長 人の集まりやすい場所は、物理的なこともあるが、雰囲気も重要だ。
- 知事 美術館の機能は時代を経れば変わるといことで、そこを調整できるソフトが大事という話が先程あったが、もう少し詳しく。
- 酒井委員 お金がないときは知恵がでる。この建物でも手直しをすればやっていけないことはない。しかし、相当の工夫と人的対応が必要だ。美術館の中の音楽的機能も満たさなければならないし、周辺環境整備を行い美術館があるという雰囲気づくりが絶対に必要だ。県立美術館は点だけで存在するのではなく、県内全域に毛細血管のように様々な作用を及ぼすところまで欲深く考える必要がある。
- 澄川委員長 大分市というより県の顔となる必要がある。県外、国外からの客も多くなるようなことを考える中での目玉であると思えばよい。教育や憩いの場や集まり

やすいお祭り広場にもなるという形が目標かもしれない。単なる美術館ではない、広がりのある広場という形が理想的だと思う。

- 青木委員 この場所は航空写真で見ると能楽堂があるし、下流に結構良い広場がある。鉄道利用者には大分駅周辺が良いが、ある程度の駐車場を切り離して考えるのは困難ではないか。ランドスケープが悪くて環境整備を行ってこなかったことが、ここのポテンシャルの低下につながったと思うので、一回見直す作業を行い適正かどうかを検討する必要がある。
- 川崎委員 この場所は水の問題はあるが、大分市内では一番大きな桜見物の場所だ。ただ、能楽堂の稼働率が低く、今後のありようを考えないといけない。県の顔という意味では、収蔵品がかなりかぶっている大分市美術館との棲み分けが気になる。
- 澄川委員長 皆さんの意見では、どういうものかは今後の議論だが、新しいものを考えた方が良いのではないかという方向へ傾いているような気がするが。
- 酒井委員 難しい問題だ。美術館が将来どういう形になっていくか掴みにくい面がある。お金をかけだしたらきりがないので、かけないで洒落たものができるのが夢だ。そのためには多少夢を持って話し合っていくけれど、少しセーブしながら最終的な落としどころを考えるということだろう。
- 中山副委員長 一つの建物で全てを賄う、また、みんなで相談するとあれもこれもという話になりがちだ。大分駅裏の開発で文化ホールができる、近くに大分市美術館と芸術文化短期大学もあるがこれらをトライアングルとして文化ゾーンを造ると良いという声も聞く。美術と音楽を縦割りで考えるのは不自然で、近隣に右脳的な芸術的な環境の整っているエリアの中にあれば建物の中にオールインワンで充足しなくても、回遊していくことで利用度が上がる。そういうことでロケーションを決めた方が良い。
- 青木委員 駅裏に新しい美術館を造るのであれば、この場所をどうするかという議論は重要なことだ。性格付けをしっかり行う必要がある。場所の選定は将来の移動手段をにらみながら考慮していく必要がある。
- 渡辺委員 芸術会館の問題点を経験上言えば、展示スペースの問題が一番だ。県美展開催時に他県から来た客から収蔵品が展示されていないとクレームがあることが何度もあった。複合施設であることから、ホール利用者と駐車場の利用に関しトラブルもある。これまで十分でなかったが、今後は鑑賞教育が大事で、子どもたちに良いものを見せることで感化していくことが重要だ。そのためには集まりやすい場所が大事。お金をかけないとすれば分館方式も考えられる。
- 山口(正)委員 これからの美術館の方向としては、博物館的な展示でなく、現代の作品に接する機会、体験する場として新しい価値を創造する、そういった目的で進んで欲しい。
- 委員長<総括> 今の芸術会館では、県立美術館として十分ではないというのが皆さんのご意見ということで総括する。次回はもう少し踏み込んだ意見をいただくこととしたい。知事、その辺でよろしいか。
- 知事 今日は様々なご意見をいただいた。行ったり来たりすることが今後もあると思うが、委員長の仕切りで進めて欲しい。
- 委員長 今回結論は出ないが、これから荷物を積み船がでるということで、記録に

残すように。そういうことでよろしければ皆さん拍手を。

[各委員拍手]

5 その他

第2回委員会の開催日程について（14：55～）

- ・事務局から、3月16日13時から県庁内会議室で開催すること等を説明する。
- ・事務局から、資料P15以降のデータ等を今後の検討の参考とするよう紹介する。